

工事の無事を祈る



JA筑紫は7月4日、那珂川町松木で農産物直売所ゆめ畑那珂川店とJA安徳支店の起工式を行いました。JA理事や役職員、地元評議員、建設会社関係者など40名が出席し、工事の無事を祈りました。白水組合長は「組合員の方に喜んでいただけるように運営していきたいです」と挨拶しました。

安徳支店の新店舗は、延床面積約499㎡の2階建てで、ゆめ畑那珂川店の新店舗は、延床面積約491㎡の平屋建てです。平成30年冬にオープンを予定しております。

第8期ちくし農業塾の開講式を行いました



JA筑紫は、筑紫野市のJA物流センターで第8期ちくし農業塾開講式を開きました。今期の塾生は7名。習得した知識や技術を生かし、JA直売所出荷者や生産部会の一員となる販売農家を目指して、約11カ月間に及ぶ講義がスタートしました。

式には、行政関係者やJA役職員など23名が参加。塾生は1人1人抱負を述べました。講師を務める室園正敏さんは「この11カ月間、一人前になるために目標を持って学んでほしいです」と挨拶しました。また、白水組合長は「11カ月の間で経験を積み、今後は私たちと農業を担う一員となってほしいです」と塾生を激励しました。

JA筑紫は、新規就農者や農業後継者の育成を目的に、露地野菜や施設園芸についての実習・講義を行う「ちくし農業塾」を平成23年度から開講。第1期から7期までに71名が修了し、それぞれが直売所出荷者や生産部会員などとして活躍しています。

気持ちを新たに団結



福岡県農政連筑紫支部は、JA筑紫本店で第44回福岡県農政連筑紫支部 第9回福岡県農政協議会筑紫支部代議員総会を開きました。盟友や女性部員、青壮年部、JA役職員など250名が参加しました。

平成29年度の事業報告や役員承認など全4議案を承認。30年度は、食料・農業・農村対策等総合農政の確立をめざす運動の展開など4項目を重点項目として活動します。

夏芽アスパラガス 最盛期



JA筑紫アスパラガス部会は7月12日、JA物流センターで部会定例会を開きました。出荷規格や基準などについて部会員で話し合いました。部会員、福岡普及指導センター、JA全農ふくれん、JA農業振興課職員など13名が参加しました。

目合わせ終了後、筑紫野地区と那珂川地区の圃場巡回を行いました。夏芽アスパラガスの最盛期を迎え、より高品質なアスパラガスの生産に取り組むために、栽培管理や病害虫の発生状況を確認。互いの栽培方法などを熱心に情報交換しました。

参加した部会員は「高品質なアスパラガスを出荷していきたいです」と意気込みます。春芽アスパラガスはおおむね順調に生育し、昨年の収量より約4割増。

今後も病害虫防除の徹底を図り、夏芽アスパラガスの収量18tを目指しています。

稲作の適正な栽培管理を呼びかける



JA筑紫は、管内59カ所で、7月2日～19日まで8日間の日程で、平成30年度稲作中間管理講習会を行いました。適正な栽培管理を呼びかけ、高品質な米作りを目指します。

筑紫野市山口地区では、組合員とJA職員らが参加し、気象と生育状況を踏まえた栽培管理や、病害虫対策などをJA営農生活部職員が説明。参加者は、真剣な表情で資料に目を通しながら、説明を聞き、除草などについて質問しました。

営農生活部農産課の職員は「豪雨や台風の被害を受けた水田もあります。猛暑が続くので、気象に注意し、高品質な米づくりに努めてほしいです」と話しました。

Aコープマーク品の安全と美味しさをPR



JA筑紫女性部消費生活委員会は、JA農産物直売所ゆめ畑春日店で、女性部が勧めるAコープマーク品の試食販売会を行いました。安全で安心なおいしさを、より多くの人に知ってもらおうと企画。5名の女性部員が店頭でPRしました。

Aコープマーク品を使った、「米こうじ甘酒のシャーベット」や「ほめられ酢のピクルス」など5種類の試食を準備。女性部員が来店客に声をかけ、試食を振舞いながらレシピなどを紹介しました。来店客は「さっぱりしていて美味しい。手軽に作れるレシピだったので、自分でも作ってみたいです」と話していました。

いこいの広場楽しんで



ＪＡ筑紫の太宰府地区女性部は、太宰府中央支店で「ＪＡいこいの広場」を開きました。太宰府地区内のおおむね70歳以上の女性22名と部員、職員が参加しました。

この取り組みは、さまざまなもてなしで楽しんでもらおうと毎年行っているもの。この日は、正しいラジオ体操を学んだ他、ゲームで親睦を深めました。また、農産物加工所「うめっこ」が作った弁当や、部員らが持ち寄った漬け物などの昼食やおやつを楽しみました。

親子で料理を楽しむ



ＪＡ筑紫農産物直売所ゆめ畑は、太宰府市文化ふれあい館で、平成30年度夏休み親子クッキングを開きました。夏休み期間の食育活動の一環として、安全・安心な地元野菜を使った料理を文化ふれあい館とＪＡが共同で考案し、管内在住の親子11組31名が参加しました。

調理は、ＪＡ専属フードコーディネーターの古賀美里さんが講師を務め、参加した親子は「夏みかんのちらし寿司」「旬野菜の生春巻き」「卵豆腐の冷たい汁物」の3種類に挑戦。ゆめ畑太宰府店で販売している新鮮な食材を使い、参加者達は会話を弾ませながら手際よく調理を進めていました。

古賀さんは、熱中症対策として経口補水液の作り方も説明。子ども達に夏休み中の過ごし方について注意を呼びかけていました。

秋冬野菜栽培講習会



ＪＡ筑紫は、7月27日と30日の2日間に、大野城、太宰府、筑紫野、春日・那珂川地区でゆめ畑野菜栽培講習会を開き、ＪＡ農産物直売所ゆめ畑の出荷者105名が参加しました。

ＪＡ営農生活部農業振興課の山本幸彦園芸指導員が講師を務め、気象状況や農作物の現状の他、今後の管理について説明。山本園芸指導員は、「それぞれの野菜の特性に気を付けて栽培して欲しいです」と話していました。

講習会は、技術の向上を図り、利用者へ安定的な野菜供給を目指すことが目的です。春夏・秋冬ごとの講習会の他に畑の巡回をするなど、出荷量増加にもつなげています。

女性部夏料理講習会



JA筑紫女性部は、平成30年度夏料理講習を、管内9カ所で行いました。講習会は、暑い夏を健康的な食事で乗り切ろうと毎年企画。

山口コミュニティセンターで行われた講習会には、山口支店女性部のメンバー30名が参加しました。JA生活福祉課職員が調理手順を説明。部員達はメニューを分担し手際よく調理を進めていました。今回のメニューは、ナスの蒲焼など6品。栄養もボリュームも満点で夏にぴったりのメニューでした。

出来上がった料理を試食した部員は「夏野菜を使い、見た目も華やか。自宅でも作りたいです」と笑顔で話していました。

筑紫地区農業振興協議会研修会



福岡普及指導センターと各行政、JA筑紫で構成する筑紫地区農業振興協議会は、本店で平成30年度筑紫地区リーダー研修会を開きました。農事組合長や青壮年部員、女性部役員など158名が参加しました。

研修会は、JA管内の認定農業者や農事組合長など、地域農業を担うリーダーを対象に、農業に深く関係する題材をテーマに年に一度開かれています。

今回は、福岡県農業大学の川口進校長が「まちとむらが支えあう未来を拓こう！」をテーマに講演。食料自給率などのデータをもとに、地域の農業のあり方などを話しました。